

総合的な探究の時間

1 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

総合的な探究の時間の指導計画の作成に当たっては、年間や、単元など内容や時間のまとまりの中で、育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが必要である。例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが求められる。

また、探究のプロセス（①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現）を充実させるとともに、その過程において探究の見方・考え方を働かせ、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心に基づく学習を行うなど、創意工夫を生かした教育を充実させることは、今回の改訂における重要な改善点である。

創意工夫を生かすとは、他校にはない特殊なもの、独創性の高いものを行うことが求められているわけではない。生徒や学校、地域の実態に応じて、それぞれの学校の生徒にふさわしい教育活動を適切に実施することが重要であり、特に地域の実態を把握するために教師自らが地域に興味をもち、実際に見たり聞いたりして、地域と関わることを望まれる。

なお、探究の過程において、各教科・科目等で身に付けた資質・能力や、それまでの総合的な探究の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付けるような学びの展開が重要である。

総合的な探究の時間の目標は、育てたいと願う生徒の姿を、育成を目指す資質・能力として各学校で定めることから、学校の教育目標と直接つながっており、目標を実現するためには、全教育活動における総合的な探究の時間の位置付けを明確にすることが重要である。そして、目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するに当たっては、生徒の多様な課題に対する意識を生かすことが求められる。例えば、「自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題」を探究課題として設定した場合、「過去と比べて地域の自然環境はどう変化してきているのだろうか」、「地域で暮らす人々は、地域の自然環境に対してどのような思いをもっているのだろうか」などのような課題を導き出し、幅広く、複線的な探究を行っていくことが考えられる。

各教科及び特別活動と総合的な探究の時間は、それぞれ固有の目標と内容をもっている。それぞれが役割を十分に果たし、その目標をよりよく実現することで、教育課程は全体として適切に機能することになる。従って、特定の教科・科目等の知識や技能の習得を図る学習活動が行われていたり、修学旅行や体育祭の準備などと混同された学習活動が行われることは、総合的な探究の時間としてふさわしくない。

(2) 内容の取扱いについての配慮事項

教師は、各学校で定めた総合的な探究の時間の目標及び内容に基づいて、育成を目指

す資質・能力が身に付いているのかを継続的に評価しながら、より質の高い資質・能力の育成に向けて自立的な学習が行われるよう、必要な手立てを講じる必要がある。生徒の主体性を生かした学習と教師の適切な指導が相まってこそ、より質の高い学習が実現され、総合的な探究の時間の目標が達成される。

生徒が自分で課題を発見するとは、生徒が自分自身の力で課題を見付け設定することに加え、設定した課題と自分自身との関係が明らかになること、設定した課題と実社会や実生活との関係がはっきりすることを意味する。「課題の設定」の際には、課題を発見する過程を重視し、課題を設定するための知識や技能を生徒に身に付けさせ、自分自身で探究を進めることができるよう十分な時間をかけて指導することが重要である。

また、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を定める際、「学びに向かう力、人間性等」については、「自分自身に関すること」、「他者や社会との関わりに関すること」の両方の視点を踏まえることで、自他の存在や考えが明らかになり、自分自身の変容や他者や社会との関わりに気付くことなどが期待できる。こうした学びが実現されるためにも、学習活動に丁寧な振り返りを位置付けることが欠かせない。

探究の過程を質的に高めていくため、探究の過程において、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を行うことが求められる。このことにより、多様なアイデアや視点を組み合わせる等の相互作用の中で、グループとして考えが練り上げられると同時に、個人の中にも新たな考えが構築されていく。また、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動を行うことも求められる。例えば、「考えるための技法」を活用し、集めた情報を共通点と相違点に分けて比較したり、体験したことや収集した情報と既存の知識を関連付けたり、理由や根拠を示したりすることで、情報を分析し意味付けることなどが考えられる。さらには、「考えるための技法」が自在に活用されるようにすることが求められる。「考えるための技法」とは、例えば「比較する」、「分類する」、「関連付ける」などの考える際に必要になる情報の処理方法のことである。

多様な学習形態を支えるために、指導体制について工夫を行うことも求められる。地域の人々を積極的に活用したり、「社会に開かれた教育課程」の視点から、育成を目指す資質・能力について保護者や地域と共有したりすることが大切である。

(3) 総則関連事項

総則では「学習の基盤となる資質・能力」として、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力などを挙げているが、総合的な探究の時間においても、生徒自らが課題を設定して取り組む、実社会や実生活の中にある複雑な問題状況の解決に取り組む、答えが一つに定まらない問題を取り扱うなどして、教科・科目等を超えた全ての学習の基盤となる資質・能力の育成に貢献することが期待されている。

総合的な探究の時間の標準の単位数は3～6単位であるが、年間35週行うことを標準としておらず、特定の年次において実施したり、特定の学期又は期間に行う方法を組み合わせ活用したりすることが可能である。

なお、総合的な探究の時間において自然体験活動や就業体験活動などの社会体験を探究の過程の中で行う場合においては、特別活動の代替を認められるが、特別活動における体験活動の実施をもって総合的な探究の時間の代替を認めるものではない。

2 年間指導計画及び単元計画の作成

(1) 年間指導計画及び単元計画の基本的な考え方

年間指導計画及び単元計画は、生徒が日々取り組む学習活動の指導計画である。1年間を通して一つの単元で構成される場合においても、複数の単元で構成される場合でも、育成を目指す資質・能力を中心に計画を立てることが大切である。

年間指導計画は1年間の流れの中に単元を位置付け、学習活動に関する指導の計画を分かりやすく示したものである。単元計画とは、課題の解決や探究活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとまりである単元についての指導計画である。これらの作成に当たっては、前年度の学習活動の様子と、校内をはじめとする当該学年の過去の実践例を基に、教育課程の見直しを行い、見直しをもって4月を迎えることが大切である。

(2) 年間指導計画の作成と運用

年間指導計画は、1年間における具体的な学習活動を構想し、単元を配列したものである。記載される要素としては、単元名、主な学習活動、活動時期、予定時数などが考えられる。各学校が実施する教育活動の特質に応じて必要な要素を盛り込み、活用しやすいよう、他の教科・科目等や他学年との関連を示す表を作成することは、全校体制で共通理解を図り、連携を図ることにつながる。作成に当たっては、次の点に配慮する。

- 生徒の学習経験に配慮すること
- 実社会や実生活との接点を生み出すこと、季節や地域の行事など適切な活動時期を生かすこと
- 他教科等との関連を明らかにすること
- 外部の教育資源の活用及び異校種・他校との交流を意識すること

(3) 単元計画の作成と運用

単元計画の作成とは、教師が意図やねらいをもって、単元のまとまりを適切に生み出そうとする作業である。単元計画作成に際しては、次の重要なポイントがある。

ポイント1：生徒の興味・関心等に基づく単元を構想する。

- ・ 生徒の関心や疑問は何かを丁寧に見取り、把握する。
- ・ 生徒の関心や疑問は、教師の働きかけなどにより新たな関心や疑問が芽生える可能性があるなど環境との相互作用の中で生まれ、変化するものであると捉える。
- ・ 生徒の関心や疑問を取り上げる際は、総合的な探究の時間において価値ある学習に結び付く見込みのあるものを取り上げる。

ポイント2：意図した学習を効果的に生み出す単元を構成する。

- ・ 生徒の意識や活動の向かう方向を的確に予測し、十分に教材研究をする。
- ・ 単元計画の運用に当たっては、年度当初に作成した計画を必要に応じて適宜見直していく柔軟かつ弾力的な姿勢をもつ。
- ・ 計画の見直しの際には、中間発表会などの節目を活用するなどして、生徒とともに計画を見直すことが必要である。

3 「総合的な探究の時間」を充実させるための体制づくり

高等学校は、生徒の実情や地域から期待される役割などにおいて非常に多様であり、総合的な探究の時間においてどのような資質・能力の育成を目指すのかということがその高等学校のいわばミッションを体現するものとなるべきであり、学校全体で教職員が連携してその実現に向かっていくことが必要である。

質の高い豊かな学習活動を実施するための校内体制として、次の4点に配慮が必要である。

- ① 校内の全ての教職員が、特性や専門性を生かし、協力して取り組む体制を整備すること
- ② 確実かつ柔軟な実施のための授業時数の確保と弾力的な運用に留意すること
- ③ 多様な学習活動に対応するための空間、時間、人などの学習環境を整備、改善すること
- ④ 家庭や地域と連携・協働した学習活動を展開するための外部連携体制を構築すること

総合的な探究の時間では、生徒の課題の解決や探究活動の広がりや深まりによって、複数の教師による指導や校外の支援者との協力的な指導が必要になる。そのため、指導方法や指導内容などをめぐって、指導する教師が気軽に相談できる仕組みを職員組織に位置付けておくことも大切になる。

さらに、指導に必要な施設・設備の調整や予算の配分や執行の役割も校内に必要であることから、校内に推進委員会や分掌を設置するなど、総合的な探究の時間の指導に当たる教師を支える運営体制を整える必要がある。

Topic

STEAM教育について

文部科学大臣は、平成31年（2019年）4月17日、これからの新しい高校教育の在り方について、中央教育審議会に5点諮問しました。その中の一つに「いわゆる文系・理系の類型に関わらず学習指導要領に定められた様々な科目をバランスよく学ぶことや、STEAM教育の推進」があげられています。

また、教育再生実行会議においても、「国は、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することができるよう、初等中等教育段階においては、STEAM教育（Science、Technology、Engineering、Art、Mathematics 等の各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な教育）を推進するため、「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」、「理数探究」等における問題発見・解決的な学習活動の充実を図る」ことを提言しています。

国は、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、人材活用も含め産学連携や地域連携によるSTEAM教育の事例の構築や収集、モデルプランの提示や全国展開を行うとともに、グローバルな社会課題を題材にした、産学連携STEAM教育コンテンツのオンライン・ライブラリーを構築することとしています。

4 「総合的な探究の時間」の実践事例（「まちづくりプロジェクト」の取組）

学習指導要領では、目標を実現するにふさわしい探究課題の設定の一つに、地域や学校の特色に応じた課題として地域活性化に向けた特色ある取組が例示されている。また、課題の設定に、持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標を参考にすることも考えられる。

ここでは、「SDGsの視点でまちをつくる」ことを探究課題とした取組の実践例を示す。

◆全体計画

学校教育目標	しなやかにたくましく社会を生き抜く、人としての力を育む		
育成を目指す 資質・能力	7つの「できる」(+ そのための2つの習慣：生活習慣、学習習慣の確立) 傾聴力、キャリアプランニング力、思考力・判断力、表現力、想像力・創造力、協働力、自己肯定力		
総合的な探究の 時間の目標	探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの、こと、自然に関わる総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方・生き方を考えながら、適切で論理的な課題の発見と解決していくための資質・能力を育成することを目指す。		
探究のテーマ	まちづくりプロジェクト		
探究課題	SDGsの視点でまちをつくる		
探究の目的	探究課題を通して、「自分の言葉で伝える力を高める」こと		
探究課題の解決 を通して育成を 目指す具体的な 資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な思考方法、情報処理能力、言語能力（聞く・話す・書く）を身に付けるとともに、学ぶ意義を理解すること。地域や社会のよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることを理解する力。	地域や社会の人、もの、こと、自然と自分自身との関わりから問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を整理・分析して、「自分の言葉で」「わかりやすく」まとめ、表現する力。	地域や社会の人、もの、こと、自然についての探究活動に自分の意思で真摯に向き合い、解決に向け取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度。
7つの「できる」との関わり	傾聴力、キャリアプランニング力	思考力・判断力、表現力、想像力・創造力	協働力、自己肯定力
学 年	学 習 活 動		
1 学年	【課題設定・具体策提案】 ・「SDGsの17の目標」を参考に、「町における課題から定める目標」を設定した上で、持続可能なまちづくりのための課題設定とその課題を解決するための具体策を提案する。	・「総合的な探究の時間」ガイダンス ・SDGsに係る講演、ワークショップ ・SDGsカードゲーム（地方創生版） ・町の現状リサーチ（他地域との比較） ・課題発見（ゼミ単位での検討） ・まちづくりカンファレンス ・解決策考案（ゼミ単位での検討） ・小中高合同発表会 ・小・中学校の児童生徒、地域の方に「自分の言葉で伝える」ことを重視する ・発表後の質疑、議論を通して、課題解決の具体策の再検討につなげる	・身に付けさせたい資質・能力を生徒にも自覚させる ・SDGsの視点、まちづくりについて町民とともに理解を深める ・町民と合同で行うカードゲームを通して持続可能なまちづくりを考える ・検討した課題について町の関係者の方から直接話を聞く
2 学年	【課題解決に向けた具体策の実践】 ・1学年の取組の中で考えた課題を解決するための具体策を実践し、成果及び課題について提案する。	・1年生での取組の振り返り ・各ゼミによる活動実践の企画 ・各ゼミによる活動実践の運営 ・実践の中で、「主体性」、「協働性」、「探究性」を生徒に意識させる ・実践を進める中で、随時振り返りを行い、軌道修正を行う ・小中高合同発表会 ・発表内容は、「具体策を実践しての成果・課題」 ・「成果」については継続に向けた提案／「課題について」は改善に向けた提案 ※ 校内選考を行い、選ばれたゼミの提案を「全国高校生マイプロジェクトアワード」に応募する。	・ゼミ担当者（教員）を含め、改めて本取組の目的・流れ等について確認する
3 学年	【自己の在り方・生き方への転移】 ・1・2学年での経験を踏まえて、自分がどのような社会人になりたいか、どのような行動が社会のためになるのかを考えながら、自己の在り方・生き方を問う。	・1・2年生の取組の自己評価（質問紙による評価） ・「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」が、どのような取組によりどのように身に付いたかを自己評価する ・まちづくりプロジェクト全体のまとめ、振り返り ・本プロジェクトにおける自分やゼミの取組内容、活動を通して身に付けた資質・能力等について、「自分の言葉で」まとめる	

Topic

中高一貫校における6年間を通じた 地域や学校の特色に応じた課題と解決に向けた取組

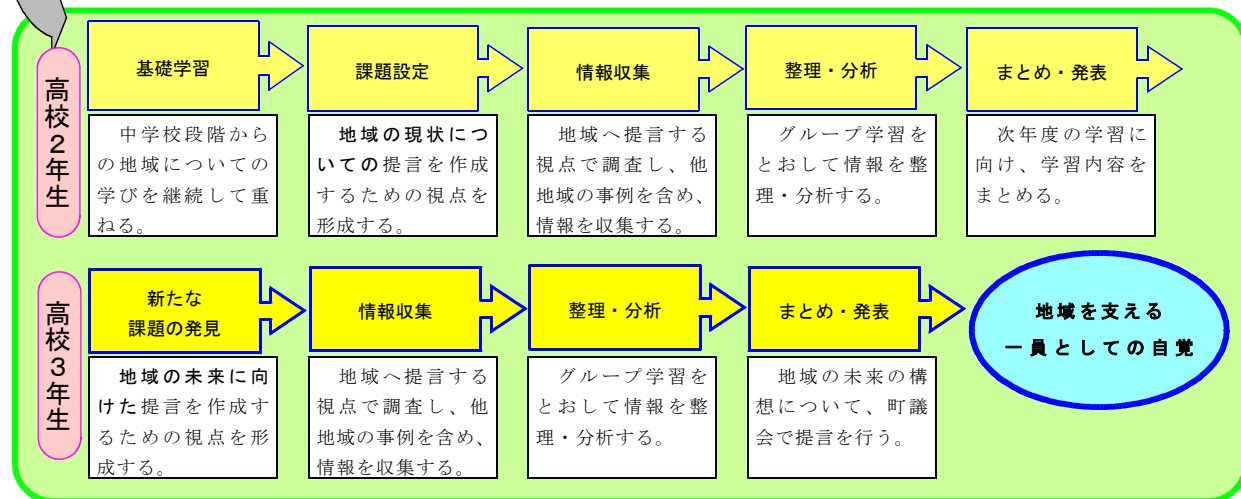
生徒の発達段階に応じた系統的な教育活動の充実を図るためには、学校段階間の接続を意識した教育課程の編成・実施や指導方法の工夫・改善を行うことが重要です。

本校では、地域全体を学びのキャンパスと捉え、様々な地域資源を題材として地域社会に貢献する態度や課題を解決する能力などを身に付ける、本校ならではの新しい学びを展開しています。

取組の内容

学年	主なテーマ、ねらい等	主な活動内容
中学1年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然歴史探究学習 地域の事前環境と歴史について 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然や歴史に関する講演会 地域の社会教育施設の見学 野外巡検
中学2年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業学習 職場体験と連動した地域の産業について 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の商業、産業、観光等についてのパネル・ディスカッション 職場体験
中学3年	<ul style="list-style-type: none"> 地域のまちづくり学習 地域の行政と課題について 	<ul style="list-style-type: none"> 町長による講演会 プレゼンテーションによる発表
高校1年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や産業等を学ぶ 地域理解や地域愛を育む 持続可能な地域創生のための基礎的な知識や技能を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然や歴史に関する講演会 地域の産業や観光施設の視察 講演会や視察で得た情報のまとめと発表(グループワーク)
高校2年	<ul style="list-style-type: none"> 地域行政と課題、地域創生の取組等を学ぶ 生活の基盤となる地域を理解し、地域を支える一員としての自覚を育む 探究・提案・発表活動を通して持続可能な地域創生のための基礎的な知識や技能を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の現状と今後についてのディスカッション 地域のブランド化への挑戦①
高校3年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の未来を構想する活動を通して、生活の基盤である地域を理解し、地域を支える一員としての自覚を育む 探究・提案・発表活動を通して持続可能な地域創生のための基礎的な知識や技能を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のブランド化への提言② 地域への提言

2・3学年の学習活動における探究のプロセス



取組の成果等

6年間を見通したカリキュラムを編成し、探究活動の基礎に触れたり、プレゼンテーションを行ったりすることで、卒業後の学びや発表の際に力を発揮することができている。

中高一貫教育校の取組や、中学校等の他校種と高等学校が連携した取組を取りまとめた事例集(「中学校と高等学校の連携事例集」)を、北海道教育委員会のウェブページに掲載しています。
http://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/jirei/RO1_chuukourenkeijireishuu.pdf